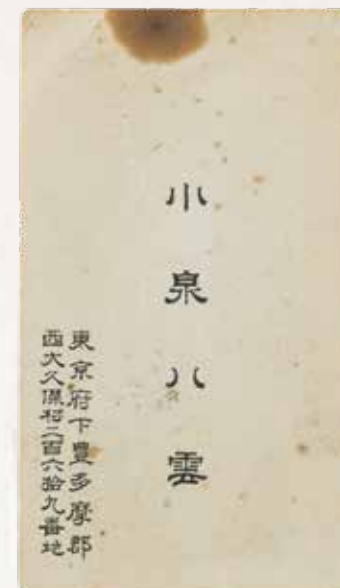


一から知りたい 小泉八雲とセツの物語



一から知りたい小泉八雲とセツの物語

松江市文化スポーツ部文化振興課





ただあなたの話、あなたの言葉、あなたの考えてなければ、いけません
『思ひ出の記』小泉節子著 ハーベスト出版

絵・藤川康弘



小泉 八雲 ラフカディオ・ハーン
1850-1904年

目次

67 P	66 P	64 P	62 P	60 P	58 P	52 P	42 P	36 P	28 P	26 P	16 P	10 P	4 P
あと書きに代えて	参考文献	八雲とセツの略年譜	松江に残る八雲の「面影」	八雲作品 私のいち推し	八雲とセツを支えた人々	終焉の地、東京	小泉八雲の怪談	ハーンとセツのコミュニケーション	出逢い、結婚、そして帰化	恩人ワトキンに宛てた手紙	ハーン、松江に赴任する	小泉セツの23年	ラフカディオ・ハーンの39年





ラフカディオ・ハーンの39年

父はアイルランド人の英国軍医。4歳でギリシャ人の母と生き別れ、不幸な青春時代を送る。19歳で単身アメリカへ移民船で渡り、放浪の末、39歳でついに日本へ！

ハーンはこの国の人？

ラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn)＝小泉八雲は日本の幕末にあたる1850年6月27日、ギリシャのレフカダ島に生まれました。名前のラフカディオは、島の名称にちなんで付けられました。父のチャールズ・ブッシュ・ハーンはアイルランド出身で、当時ギリシャ駐屯イギリス軍の軍医。その駐屯先で出逢ったのが、ラフカディオの母となるギリシャ人のローザ・カシマチでした。少しややこしいのですが、当時のアイルランドは英国の支配下にあつたので、日本に帰化するまでのハーンは英国籍でした。が、アイルランドが独立国となつたいま「ハーンはこの国の人だつたの？」と問われたら、「ギリシャ系アイルランド人」と答えるのが正解でしょう。



小泉家提供

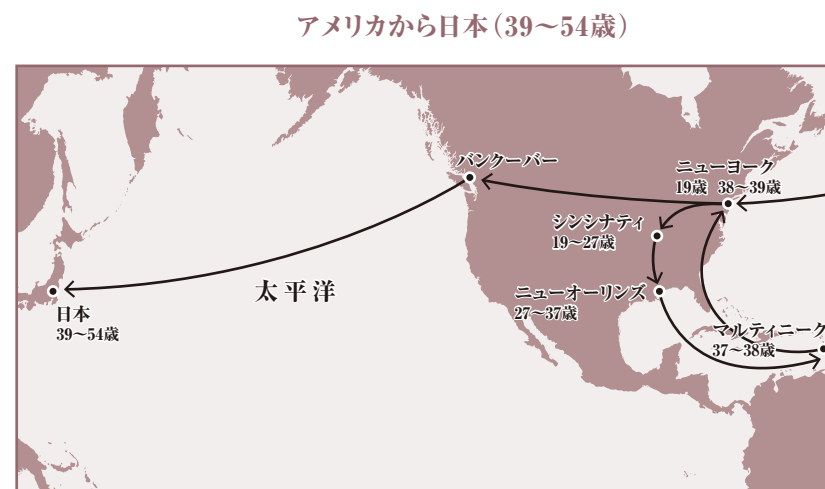
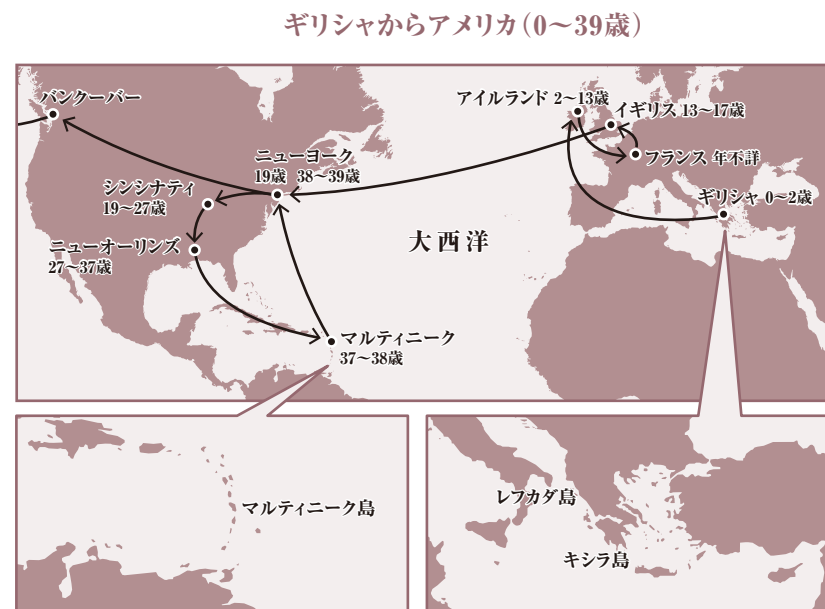


生誕の地レフカダ(上)と
父のチャールズ・ブッシュ・ハーン



1891年正月に松江市殿町の森田写真館で撮影

小泉八雲、生涯の足跡



両親との離別、失明、学校中退と不幸の連鎖

2歳で父の実家があるアイルランドのダブリンに移ります。けれど4歳のとき、母ローザがハーンを残してギリシャに帰国してしまいます。

7歳のときに両親が離婚すると、別の女性と再婚した父チャールズとも生き別れ状態に。

ハーンは大叔母(祖母の妹)サラブレナンのもとに引き取られます。

「ハーンは父方の裕福な大叔母に育てられ、その援助により王子様のように素晴らしい生活を送った——とは、ギリシャ人のあるハーン研究者の言ですが、しかしその幸福も長くは続きませんでした。

13歳でイギリス本土東北地方のカトリック系神学校(全寮制)に進みます。

しかし16歳のとき、遊戯中の事故で左目を失明してしまうのです。

さらに17歳のとき大叔母ブレナンが事業の失敗で破産したため、後ろ盾を失ったハーンは神学校からの中退を余儀なくされます。

最後には、ひとりロンドンの街をさすらうほどの辛酸を舐めます。



神学校時代のハーン

ANSWER 1

身長157cm、足のサイズは23.5cmでした。ただ当時の日本男子の平均身長は158cm程度でしたから、体格はほぼ日本人並みだったと言えます。

混血女性との結婚で解雇される

ハーンは19歳のとき、ヨーロッパから移民船でアメリカへ渡ります。しかし、頼りにしていたシンシナティに住む親戚からは門前払い。ホームレスになってしまいます。そのとき手を差し伸べてくれたのが、スコットランド出身で印刷所を経営するヘンリー・ワトキン（P 26〜27）でした。ハーンはその印刷所で職を得ると、やがてシンシナティの新聞社で働くようになり、24歳のとき記者として正式採用されます。そして殺人事件の現場ルポルタージュなどで大いに名前を売りました。

同じころハーンは、下宿先で知り合ったアリシア・フォリー（愛称マティ）20歳と結婚します。しかしそれが原因でハーンは新聞社を解雇されてしまいます。なぜなら当時の州法で、異人種間の結婚が禁止されていたからです。ハーンは白人、マティの母親は黒人奴隷でした。

結局、マティとは3年余りで破局。

ハーンは27歳で、今度は南部のニューオーリンズへ向かいます。



アリシア・フォリー（愛称マティ）1854-1913年
新宿歴史博物館

ハーンを日本に導いたものとは？

ニューオーリンズでもスタートは新聞記者でした。下町の安下宿に住み、クレオール文化（フランス系とアフリカ系の混じり合った文化）に興味を持つようになります。31歳のとき、南部で最大の新聞「タイムズ・デモクラット」紙の文芸部長として招き入れられるなど、この時期（仏領西インド諸島マルティニーク島で過ごした約2年を含む）のハーンはジャーナリストとしてだけでなく、翻訳家、小説家としても徐々に頭角を現します。

しかし39歳で再び大きな転機を迎えます。米大手月刊誌の特派記者として太平洋を横断することになるのです。ハーンの背中を押したのは、東京帝国大学の英国人教授B・H・チェンバレンの書いた『古事記』の英訳本（1882年刊）でした。

ハーンは来日直前に出会った『古事記』により、出雲神話に大きな興味を抱いたのです。



B・H・チェンバレン 1850-1935年



小泉セツの23年

明治維新の年に松江藩上級士族の家に生まれたが、困窮のため11歳で進学を断念。結婚にも破れ、機織りはたおで家族を養う23歳のセツの前に現れたのは…。

セツ、尊敬する実父を綴る

小泉セツは1868(慶応4・明治元)年2月4日、松江藩士・小泉弥右衛門湊やえもんみなとと妻チエの次女として松江の南田町で誕生。節分の日にちなみ「セツ」と名付けられました。

生後すぐ親戚筋にあたる稲垣家の養子に出され、内中原町に移ります。

小泉家は「上士」じょうしにあたる

番頭ばんがしら(藩の軍団長)、

稲垣家はそれより格下の、
ともに士族でした。



小泉家所蔵

幼少の頃の思い出



セツ自筆「幼少期の頃の思い出」 池田記念美術館所蔵
※自筆原稿を編集・現代カナ遣いしています

四ツの歳の秋に、私の帯なおしが祝われた。その時は余程にぎやかであつたと思われる。障子も襖も開け放たれて家中人でいっばいになつていた様だつた。お客様では小泉様が一番えらかつた。皆から尊敬されていた。私もえらい人だと思つていた。その小泉様は私の実父であつた。私は生まれて八日目に稲垣家にもらわれて行つた。

小泉様は御番頭で、藩中で働ける人物であつたので禄は五百石(ママ)であつたが、江戸家老塩見増右衛門の一人娘を妻としていた。増右衛門という人は江戸詰の役家老で、瑞光院様を諫めて切腹した人でえらい人であつた。小泉の実母は藩中で有名な美しいお嬢様で、音楽の天才で、草双紙の精通者であつた。稲垣家で小泉家を尊敬すること非常なもので、また稲垣家で私を大切にすること格別であつた。

私はもらい児であるという事は三ツ位の時分から知つていたが、もらい児という事を思うのは番いやな事で、ほんとに不愉快きわまる事であつた。実父母とはとてもくらべものにならぬほどに養ひ育ててもらつた祖父、父母が大切でまたよかつた。それは今に至るまで、少しのかわりもない。



松江城下地図

嘉永年間 1848-1855年

松江歴史館所蔵

セツが生まれる少し前、江戸時代末期の松江地図

- 南田町にあったセツの実家・小泉家の敷地は、記録によると1920㎡(581坪)。
松江藩での地位が小泉家より低かった稲垣家(内中原町)の敷地は、小泉家3分の1ほど(171坪)でした。
やがて零落していった稲垣家は、セツが小学校入学後に中原町へ。さらに和多見町へと住まいを移していきます。

- 松江城近くの塩見家(2667坪!)は、セツの実母チエ(P15)の実家。
松江藩家老格という高職の家から小泉家に嫁いだチエは「御家中一の器量よし」と言われました。
- 松江城三の丸(三御丸)の西隣にあった「御花畑」は当時、軍事教練所でした。
そこでセツはフランス人教官ワレットから小さな虫眼鏡をもらい、生涯大切にします(現在は小泉八雲記念館に展示)。
また、そのワレットが伝えたインゲン豆だから、松江ではモロッコインゲンをワレットと言うんだという説があります。

18歳で最初の結婚をするも…

明治維新当時、松江には3000戸ほどの武士の家があったようですが、松江藩から与えられた禄（給料）を失い、士族という名だけが残った武士の多くは時代の変化に適應できませんでした。明治18年には士族のうち7割が「自活の目途なきもの」であったという記録もあります。

稲垣家も例にもれず、養父が詐欺にあうなどして困窮しました。そのためセツは内中原小学校下等教科を卒業したものの、上等教科への進学を泣く泣く断念、実父の会社で機械はたおりとして働き家計を助けることになります。

セツは18歳のとき、鳥取の士族・前田なめじ為二を婿養子に迎えます。しかし稲垣家の現実を知った為二は、翌年出奔しゅっぺん。結局セツは21歳で為二との婚姻関係を解消し、小泉家に復籍しました。

この年1890（明治23）年。

いよいよハーンが、バンクーバーから横濱に向けて出港します。



20歳ころのセツ



セツと養母の稲垣トミ 1843～1912年

トミは出雲大社の上級官職だった高浜家の養女から稲垣家へ



セツの実父 小泉湊 1836～1887年

機械会社を興すも失敗し早逝



セツの実母 小泉チエ 1837～1912年

家老格の名門・塩見家から嫁いだ

上の3点は全て小泉家所蔵



ハーン、松江に赴任する

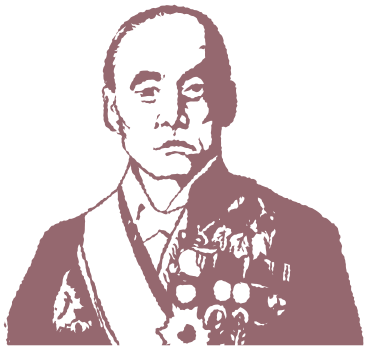
英語教師を斡旋してくれた二人の人物

1890(明治23)年4月4日、ラフカディオハーンは17日間の船旅を終え、横浜に到着します。

日本に来た目的は、挿絵画家ウエルドン(P 69、後ろ姿のハーンを描いた)に同行して、米大手月刊誌『ハーバース・マンズリー』に日本のルポルタージュを書くことでした。しかしウエルドン中心の契約内容に憤慨したハーンは、6月には派遣元のハーパー社と絶縁。

日本での仕事がなくなったハーンを救ったのは、2人の人物でした。1人は『古事記』の英訳を上梓した東京帝国大学のB・H・チェンバレン教授(P 9)。もう1人は文部省普通学務局長の服部いせう一三。服部はのちに岩手はじめ4つの県の県知事を歴任する高級官僚ですが、1884(明治17)年にニューオーリンズで開催された万国記念博覧会に渡米したおり、当時新聞記者だったハーンと出会っていました。

2人が斡旋してくれたのは島根県尋常中学校と師範学校の英語教師の職でした。ジャーナリストや作家としてキャリアを積み上げてきたハーンにとって、英語教師は40歳にして初めての経験でした。



服部一三 1851-1929年 絵・藤川康弘



島根県尋常中学校の校舎

5年制の中学校で、生徒250人ほどが在籍していました。

のちの首相若槻礼次郎、第2代日本体育協会会長岸清一(P58)などがここで学びました。現在は島根県警察本部が建っています。

富田旅館当主が遺した克明な回想録



富田旅館のあった所に、いまは大橋館があります

横浜市内の寺院で知り合った学僧・真鍋晃を
通訳兼案内役として、ハーンは1890(明治
23)年8月30日、松江にやってきました。松江大橋
の湖畔にあった富田旅館とみたで旅装を解き、2カ月
半の間ここに逗留します。

富田旅館の当主富田太平と妻のツネは、旅館
滞在中のハーンの様子を1936(昭和11)年
に克明に語り残しています(『湖都松江』37号
に全文掲載)。以下、この「富田回想録」の部を、
読みやすい現代カナで編集して紹介します。



湖都松江37号

何等の前触れもなしに其年(明治23年)の8月25、6日頃、その日はとても暑い時でしたが、時刻
は午後3、4時頃と思いますが、1人の異人さんが通弁(真鍋晃さん)とて横浜の人か)を伴れて入っ
て来られました。どういう訳で私方を指して来られたかと申せば、予て県庁学務課にては、ヘルン先
生の下宿を京店(今の末次本町)の皆美に指定してあったので、当日米子から小蒸気船で大橋下に
着くと、先生は人力車に乗って皆美に行かれたるも、何が先生の氣に入らなかったものか、先刻通り
過ぎた所に一寸目についた旅館があったから、あそこへ案内せよとの事であったようです。因縁と云う
のは不思議なものです。

(略)

私共が一番困ったことは言葉の通じかねることでありました。先生は会話中自分が了解できない
場合、必ず字引をくつて調べられます。或日、赤山(当時北堀町)に居られた宣教師方の婦人が兩名
私方に参られて、先生に面会を頼まれた。私(ツネ)は内にいられますと返答して、その旨を先生に
告げるのに「耶蘇やそが兩人ふたり来ました」と。耶蘇とは私共が日常口にする俗称でありますも、先生には
全々通ぜぬ。直様字引をくつて「耶蘇ありません」と言われる。私は困って仕舞、何か早分かりする
ことはないかと思案しても、即座によい考えが浮かばなかった。漸くようやくのこと手合せて神様を拜む
風をして、口で「アーメン」「アーメン」を唱え頭を下げた。斯くすると先生は、二階の窓際まで赴き、
空を眺め席に戻って「今日雨ない」と言われた。愈々いよいよ以て困り果てて、遂に先生の手を牽ひかん斗ばかりに
二階の段梯子の辺りまで伴れて参り御客を指さしますと、先生は見して「キリスト」かと言われ
た。私は耶蘇では分からね答こたへだ、成程と首肯うなずいたことがありました。

島根県知事との面会

英語教師としての月給は100円（単純比較は難しいですが、現在の価値で100〜200万円）。尋常中学・師範学校を兼務する当時の校長の給料が55円だったようですから、県が用意した待遇は申し分ないものでした。登校初日、ハーンは尋常中学校の同僚英語教師・西田千太郎の案内で籠手田安定島根県知事と面会します。

英語教師の日記から

「知事が尋ねていらつしやるのですがね」と西田が通訳して言った。「出雲の古い歴史をご存じですか、とのことですよ」

私はチェンバレン教授の訳した『古事記』を読んでいるから、日本で最も古いこの地方の話についてはいくらか知っている、と答えた。しばらく日本語でのやりとりが続く。西田が、私が日本に來たのは日本の古い宗教と習俗について知りたいためだということ、特に神道と出雲の伝統に関心を持っていることなどを知事に話してくれる。すると知事は、それでは杵築の出雲大社や八重垣神社、熊野大社などの有名な神社に参詣されてはどうかと言つて、さらに尋ねる。

「こちらの方は、神社の前で柏手を打つ起源についての言い伝えをご存じですか」

私が知らないと言えど、知事は『古事記』の注釈書にその記述が出ていと言われた。

「『古事記』第十四卷の三十二章に、八重事代主神が柏手を打つたと書かれているのですよ」

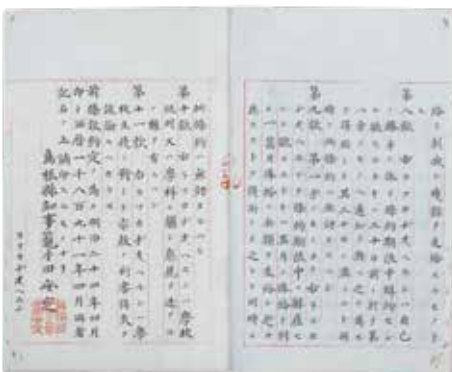
『新編日本の面影』ラファディオ・ハーン／池田雅之訳 角川ソフィア文庫

ハーンはなぜ「ヘルンさん」と呼ばれるようになったか

ハーンが島根県尋常中学校の英語教師になるにあたって、籠手田島根県知事と条約書を交わしています。そこにはハーンの名前が「ラファディオ・ヘルン」(Lafadio Hearn)と記されていました。このため松江では「ヘルンさん」「ヘルン先生」と、親しみをもつて呼ばれるようになったのです。

(ちなみに、1895年に兵庫県知事が発行したハーンのパスポート「英国人内地旅行免状」の日本語名も「ラファディオ・ヘルン」となっています)

条約書



条約書の最後の条項に
「生徒に宗教の利害得失を語ってならない」と
あるのが興味深い

松江で書いた渾身の日本デビュー作

ハーンが日本に来て初めて書いた『知られぬ日本の面影』は彼の代表作のひとつです。熊本時代の1894(明治27)年にアメリカで出版されましたが、ほぼ松江で書き上げたと言われます。上下巻全27篇からなるハーンの大作は欧米で反響を呼び、日本で職業作家としてやっつけけることを証明しました。

「一体どんな本なのでしょう。紀行文？ ルポ？ 『菊と刀』のような日本文化論？ 英語の原題にあたりと、内容を想像しやすいかもしれませんが。原題は『Glimpses of Unfamiliar Japan』です。『Glimpses』は「のぞき見、ちらっと見ること」(漢字で表現すると瞥見^{へんけん})、『Unfamiliar』は「よく知らない」「不慣れな」を意味します。

がもう少し踏み込んだ解釈をする、この本の『Glimpses』には「自分は遅れて日本に来てまだ日本を垣間見た程度だ」、『Unfamiliar Japan』には「そうはいつも、今まで人が見てこなかった民衆の声音に注目して日本を観察した」というような気持ちが込められていて、ハーンの謙虚さと自身の緊張関係がうかがえるタイトルになっています。

いまお読みの冊子では、ハーンのこの日本デビュー作を「一般的な『知られぬ日本の面影』という書名で記述していますが、図書館などに行くと、小泉八雲の著作のなかに『日本瞥見記』というタイトルもうかがえます。しかし、原典はどちらとも同じ『Glimpses of Unfamiliar Japan』です。

むしろ『Glimpses』を「瞥見」という難しい日本語ではなく「面影」という思い切った訳題にした結果、この優れた作品集が深みを増したように思えます。

知られぬ日本の面影

Glimpses of Unfamiliar Japan



1894(明治27)年、ボストンの出版社から初版1000部で刊行。26回も増刷されました。

「河内の国、ひょうたん山、恋の辻占」
これは、甘酒売りの甲高い声だ。
「甘い、甘い」
きれいな色紙にぼやけた小さな絵のついた、恋占いの紙を売り歩く人の声である。その紙を火や明かりに近づけると、目に見えないインクで書いた文字が現れてくるのだ。

子供の大好きな甘い琥珀色の水飴を売る飴屋の抑揚に富む呼び声である。

「あめー湯」

流しの易者の声である。

「占い判断、待ち人、縁談、失せ物、人相、家相、吉凶の占い」

温かい蕎麦を売る商人が、最後のひと回りをしてるところだ。

「うどんやーい、そばやーい」

しばらくの間、私は町の声に耳を傾ける。暗闇の中に、洞光寺の柔らかい梵鐘の音が轟いている。それから、お酒ではる酔い気分になった人たちの歌声が聞こえてくる。夜の物売りも、朗々と声を響かせている。

(略)

松江の二日は、寝ている私の耳の下から、ゆつくりと大きく脈打つ脈拍のように、ズシンズシンと響いてくる大きな振動が始まる。柔らかく、鈍い、何かを打ちつけるような大きな響きだ。その間の規則正しさといい、包みこんだような音の深さといい、音が聞こえるというよりも、枕を通して振動が感じられるという方がふさわしい。その響きの伝わり方は、まるで心臓の鼓動を聴いているかのようなのである。それは米を搗く、重い杵の音であった。

神々の国の首都



ハーンは松江を、どう表現したか

『知られぬ日本の面影』のなかの一章「神々の国の首都」は、華麗な文体で綴られた松江の印象記です。

そう、ハーンにとっての松江は「神々の国の首都」だったのです。



第15代松江大橋 松江「第2の宿」の2階から見た景色は、こんな感じだったに違いありません

今岡ガクブチ店



出逢い、結婚、そして帰化

年の差18歳のカップル

富田旅館のすぐ近く、京店の湖畔に面した借家に引っ越したハーンのもとに、セツが住み込みの世話係としてやって来ます。その時期については1891(明治24)年2月ころが定説になっています。セツは23歳になったばかりでした。

P 19に紹介した「富田回想録」には次のような記述もあります。

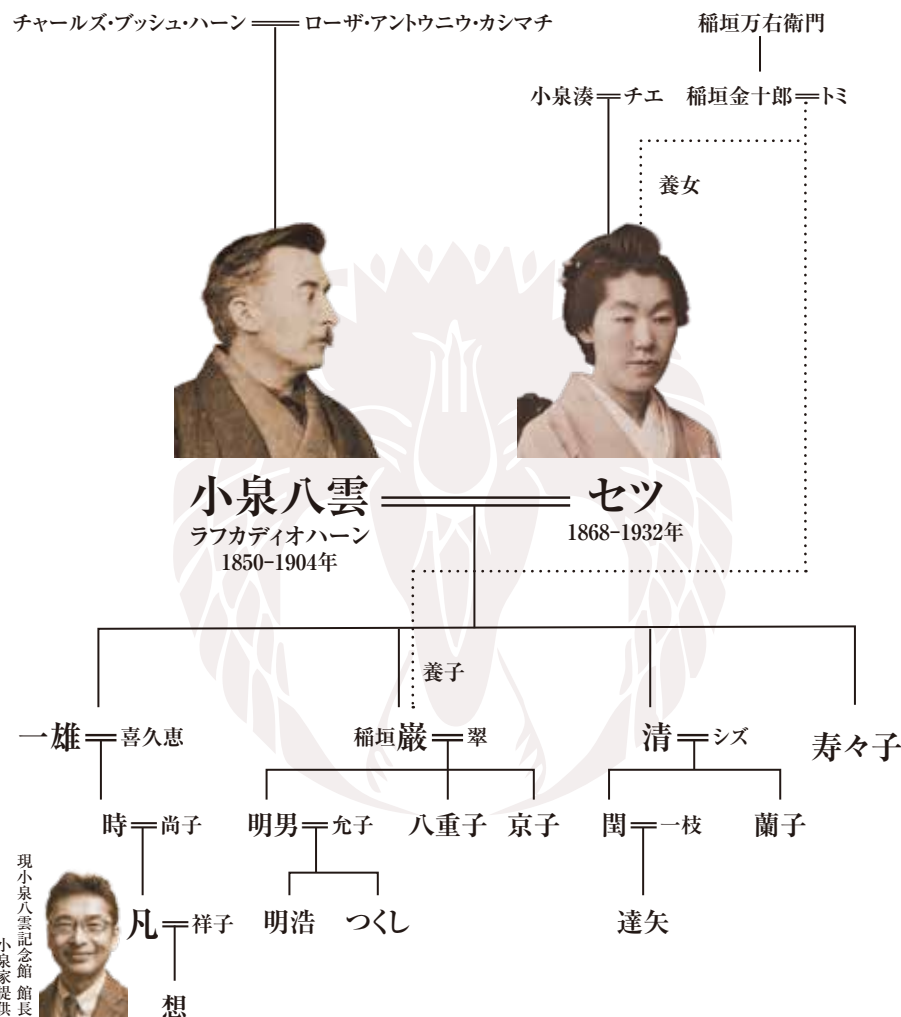
先生が結婚されたのは(略)
西田先生や私共夫婦の口添えでしたが、
その抑々^{おととも}の起りは小泉お節^{せう}さんと
多少懇意であった
お信^{のぶ}(注、富田旅館のお手伝い)の
口入れであります
式は私方で内輪に挙げられました(略)



セツの化粧道具

下の化粧刷毛2点は小泉家所蔵

小泉家 略系図



ハーンの好きなもの、嫌いなもの

庭のある侍の屋敷に住みたいと考えていたハーンは、京店の借家から塩見縄手にある教え子の家（根岸邸）に引っ越しました。現在の小泉八雲旧居です。

ハーンが松江に滞在したのは

わずか1年3か月ほどですが、

1891（明治24）年6月から11月までの

根岸邸での5か月間は事実上、

セツとの夫婦生活の始まりだったわけです。



セツが語り下ろした『思ひ出の記』には

ヘルンの「好きなもの、嫌いなもの」の記述があり、ほほえましい2人の生活の様子がうかがえます。



塩見縄手の旧居

小泉家所蔵

思ひ出の記

ヘルンの好きな物をくりかえして、ならべて申しますと、

西、夕焼、夏、海、遊泳、芭蕉、杉、淋しい墓地、虫、怪談、浦島、蓬莱などございました。

場所では、マルティニークと松江、

美保の関、日御碕、それから焼津、

食物や嗜好品ではビステキとプラムプーデン、と煙草。

嫌いな物は、うそつき、弱いものいじめ、

フロックコートやワイシャツ、ニューヨーク、

そのほかいろいろありました。

まず書斎で浴衣を着て、

静かに蟬の声を聞いている事などは、

楽しみの一つでございました。



『思ひ出の記』小泉節子著 ハーベスト出版

なみだし
Question 7

根岸邸での生活はハーンとセツの2人だけですか？（答えは次のページへ）

『新版 神々の国の旅案内』ラファディオハーン文 村松真吾訳編 八雲会

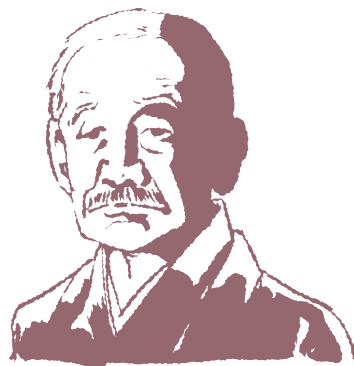
もうすぐ遙か遠くへ立ち去ることになっている。すでに教師の職を退き、今や旅券を待つばかりである。この古いひなびた町は住み慣れ思い出にあふれ、わたしにとって懐かしい町となり、もう二度と見ることはないだろうとは考えたくもない。いつの日か、この木蔭の多い北堀町きたほりの心地よい古い家に帰って来るかもしれないと、自分を納得させているところである。しかし過去の経験から、永久の別れを前にすると、必ずそういう思いをするものだということは、痛いほどよくわかつている。

実際、事情はこうである。この神々の国ではすべて永遠不滅というものはない。冬が大変厳しいこと、そして遠い南の、雪のめつたに降らない九州の大きな官立学校から声がかかったということ。それにずっと体調がすぐれなかったし、もっと温暖な気候への憧れも決断する大きな力となった。

ついに旅券が届いた。出発しなければならない。

さようなら！

ハーン二行は松江から宍道まで小型蒸気船で移動し、人力車で中国山地を超えます。初冬の霽もやに包まれた朝、松江大橋側の栈橋には200人もの生徒や教師、保護者、市民が集まり、「万歳、万歳！」の斉唱で船を見送りました。ハーンは松江を離れることにした理由を、こう記しています。



絵・藤川康弘

日本柔道の父・嘉納治五郎

松江との別れ

1891（明治24）年11月、ハーンはセツと一緒に次の目的地・熊本に向かいます。熊本の第五高等学校への転任が決まったからです。

熊本第五高等学校はその4年前に開校したばかりの、当時全国に5つしかなかった官立（国立）のナンバースクール（現在の熊本大学）。ハーンとしては県から国雇いの教師にキャリアアップしたわけで、月給も2倍の200円になりました。ハーンを推薦してくれたのは、またしてもB・H・チエンバレン東京帝国大学教授。

そしてハーンを招聘した学校長は、のちに講道館柔道の創始者となる嘉納治五郎かのう じごろう30歳でした。

長男二雄の誕生

ハーンとセツは熊本で3年暮らしますが、この間の最高の慶事は、なんと言っても長男の誕生でした。1893（明治26）年11月、ハーン43歳、セツ25歳のときです。

ハーンは息子に、自分の名前「ラフカディオ」から「カディオ」をとって「かずお」と名づけ、長男なので「雄」の漢字をあてました。しかしこのとき、ハーンは日本に帰化する前の英国人。ハーンとセツの2人はまだ、戸籍上の夫婦ではなかったのです。



一雄の七五三の祝いに親子3人で記念撮影
小泉家所蔵

「小泉八雲」の誕生

1894（明治27）年は日清戦争開戦の年にあたりますが、この年ハーンは熊本第五高等中学校を辞め、英字新聞「神戸クロニクル」に転職します。記者として活動を再び日本でも始めたのですが、目を患ってしまい、4カ月で退職します。

けれども神戸での2年間で帰化手続きを進め、1896（明治29）年2月、ついに日本国籍を取得。セツとは日本で1911番目の国際結婚が成立し、名前も「小泉八雲」とします。

「八雲」とは、『古事記』にあるスサノオノミコトが詠んだ日本最古の和歌（左上）に由来します。

八雲立（）

出雲八重垣

妻籠（むすね）みに

八重垣（くつ）

その八重垣を



戸籍謄本写し
「英国人 亡（死）チャールズ、ブシ、ヘルン長男入籍ス」とあります



ハーンとセツのコミュニケーション

ハーンとセツが出会ったとき、ハーンは日本に来て1年たってもいけませんから、カタコトの日本語。一方のセツも英語はまったく解しません。2人はどうやって「会話」していたのでしょうか？

セツが残した2冊の英単語帳

セツはハーンから英語のレッスンを受けました。そしてハーンの発音の聞き取りとその意味を、日本語でメモしました。セツはまず耳で聞こえたままをカタカナで記し、次に日本語の意味を添えます。帳面に書かれているのは単語だけでなく、日常で使われる文節も含まれています。

ここで忘れてならないのは、セツは明治生まれの松江人だということ。

セツの日本語は現在の標準語ではなく、出雲弁（松江弁）でした。ですから日本語の訳も、時折出雲弁の語り口が登場します。左ページは、セツが書いた表現を具体的に示したものです。

セツの聞き取り	セツが記した意味	ハーンが語ったと思われる英語
トウマチ	過ル	too match
ミイタ	肉	meat
アトリ	ほかの	other
オギレ	みねくえ	ugly
シレーパー	ねむたえ	sleepy
タエリダ	たえぎ くたびれる	tired
ワチ	くわい中時計	watch
トーマル	明日	tomorrow
アエアンペロ・アングレー	私立腹	I am very angry.
ノオテン・エズデー・マトリ	なんでもありません	Nothing is the matter.
デール・エズ・エーマン	男の客一人二限ル	There is a man.

鉛筆で綴られたセツの英単語帳



鉛筆で綴られたセツの英単語帳



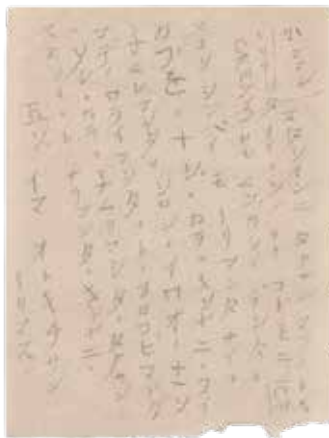
セツ愛用の姿見

2人は独特の「ヘルン言葉」で会話する

ハーンは日本語の単語や慣用句を覚えてには(助詞)抜き、動詞・形容詞の活用なし、語順は英語式という、いわゆる「ヘルン言葉」を駆使して意思疎通をはかるようになります。ハーンとセツのやりとりは、2人が東京―焼津間で交わした手紙によく表れています。

左の手紙は、ハーンが亡くなる1か月前に焼津で書かれたものです。長男の二雄の名前だけが「かづを」と平仮名で表記されています。注意深く読むと、このなかにNHK朝の連続ドラマ小説「はげばけ」のヒロインの名前が出てきます。

ハーンからセツへの手紙



小ママン
スタシオン ニ タクサン マツノ トキ
駅 待つ
ありませんでした。
アリマシタナイ。 ソノ ヨナ コドモニ
アイスクリム ヤル
ICECREAM
ムツカシイ デシタ。
難しい
スコシ シンパイモ アリマシタナイ。
ありませんでした。

1904(明治24)年8月10日 焼津小泉八雲記念館所蔵

セツの手紙もカタカナのハーンスタイルで書かれています。ハーンはセツを「ママン」「ママサマ」と呼び、セツもハーンを「パパサマ」と呼んでいます。

セツからハーンへの手紙



グッド
グド、パパサマ、アナタ、ノ、カワイ、テガミ、
可愛い
3トキ、ワタシノテニ、アリマシタ、
度
ヨロコビデ、ワライマシタト、セツプン、
笑いました
シマシタ、ヤイヅノ、テイボラ、ノ、エ、
堤防
オモシロイデス子、
面白い
ヨキテンキデ、テンノイロキレーデス子、
天の色がきれい
TOKYOオナジ、マイニチ、アツイ、デスヨ。
かづを、タクサン、ヨロコビ、デ、
喜んで
オヨギ、スル、ト、キク。
泳いだ

1904(明治24)年8月12日 池田記念美術館所蔵

セツが語り、それをハーンが創作する

小泉八雲の代表作「耳なし芳二」や「雪女」はなぜ生まれたか。

それは、他ならぬセツの協力があったからです。

ハーンはセツに「語り部」の素質があることを見抜き、日本に古くから語り継がれる説話や物語を、セツに語らせました。ハーンはそれを音（耳）で拾い、咀嚼し、文学作品にまで磨き上げるのです。

こうした手法を「再話」と言います。

「耳なし芳二」や「雪女」が収録された『怪談』は、ハーンが死去する直前（1904年）に刊行されました。セツが日本語で語り、ハーンが英語で再話した傑作を、120年以上の時を経た現在、われわれは再び日本語に訳された作品として読んでいます。なんだか不思議な気持ちになります。



思ひ出の記

私が昔話をヘルンに致します時には、いつも初めにその話の筋を大体申します。面白いとなると、その筋を書いておきます。それから詳しく話せと申します。それから幾度となく話させます。私が本を見ながら話しますと「本を見る、いけません。ただあなたの話、あなたの言葉、あなたの考えでなければ、いけません」と申しますゆえ、自分の物にしてしまっていないければなりませんから、夢にまで見るようになって参りました。

（略）

『怪談』の初めにある芳二の話は大層ヘルンの氣に入った話でございます。なかなか苦心致しまして、もとは短い物であったのをあんなに致しました。「門を開け」と武士が呼ぶところで「門を開け」では強味がないというので、いろいろ考えて「開門」と致しました。この「耳なし芳二」を書いています時の事でした。日が暮れてもランプをつけていません。私はふすまを開けないで次の間から、小さい声で、芳二と呼んでみました。「はい、私は盲目です、あなたはどなたでございますか」と内からいつて、それで黙っているのでもうございます。いつも、こんな調子で、何か書いている時には、その事ばかりに夢中になっていました。

『思ひ出の記』小泉節子著 ハーベスト出版



小泉八雲の怪談

小泉八雲は生涯に30冊ほどの著作を残しました。うち16冊は日本で書かれたものです。

日本の滞在期間は14年で、しかも英語教師や新聞記者という職業の傍らでの執筆活動でしたから、多作な作家と言っていると思います。

*

これから紹介する3つの怪談(「小豆磨橋」「館を買う女」「持田の浦のはなし」)は、『知られぬ日本の面影』のなかで「日本の民間伝承の二面」として記述された説話です。すべて独立した作品ではないので、じつは決められたタイトルはありません。なかで興味深いのは、「持田の浦の伝説」の前振りとして八雲が、「ひとときわ私の心に残っているのは、私の連れが急に思い出した話である」、つまりセツが自分に語ってくれた怪談だとわざわざ明かしていることです。

一方「雪女」は『怪談』に収められた独立した短編ですが、紙幅の関係で抄訳でのご案内です。



小豆磨橋

町の北東にある普門院の近くに小豆磨橋という橋がある。というのは、毎晩女の幽霊が橋の下に座って小豆を洗っていると、昔いわれていたからである。とても優美な日本種のアヤメ科の花で、虹紫色の花をつけるカキツバタと呼ばれている花がある。この花にちなんで、「杜若」という謡がある。現在、この謡は小豆磨橋の付近では絶対に口にしてはいけない。もう忘れられてしまったようだが、妙な理由でこの謡を聞くと近くに出没する幽霊が大層腹を立てて、その謡をそこでうたうとその人はわが身を最も恐ろしい災難にさらすことになるのだ。

昔、何ごとにも恐れを知らぬ侍がいた。ある夜、その橋に出かけ大声でその謡をうたった。幽霊は現れなかったので、侍は笑い家に帰った。家の門の近くで見たこともない背のすらっとした美しい女に出会った。女はお辞儀をして、漆塗りの女性が手紙をしまつて置く文箱のようなものを手渡した。侍は武士らしくうやうやしく頭を下げた。女は、「わたしはただの下女でございます。これは奥方様からの贈り物でございます」と言つて姿を消した。箱を開けると、幼い子の血だらけの頭があった。家に入ると、座敷に頭をちぎられたわが子の遺体ごろがっていた。

『新版 神々の国の旅案内』ラフカディオ・ハーン文 村松真吾訳編 八雲会

餡あんめを買う女

中原町なかはらという通りにある大雄寺だいおうについて、こんな話がある。中原町に水飴みずあめを売る小さな飴屋あめやがあった。母乳が出ない場合には水飴を子供に与えるのである。毎晩遅く、その飴屋に白ずくめのたいそう顔色の悪い女が二厘りんほど水飴を買いにやってきた。飴屋はひどくやせて顔色が優すぐれていないのに驚いて、親切にいろいろ尋ねてみた。女は何も答えなかった。とうとう、ある晩、好奇心にかられて後をつけてみると、女は墓地に行つた。飴屋は恐ろしくなり引き返した。次の日の晩、その女はまたやって来た。が、水飴を買わないで、一緒に来るようにと手招きをするだけだった。飴屋は、仲間と連れ立って墓地に入つていった。女はある墓石のところに行くといえなくなつた。飴屋たちは、地面の下で泣いている子供の泣き声を聞いた。墓石をどけると、なかに毎晩飴屋に来る女の亡骸なきがらがあった。そのそばに、生きている赤ん坊ちんぽうが提灯ちんどんの明かりを見て微笑み、わきには水飴の小さな茶碗ちやわんが置いてあった。この母親は早まつて埋葬され、この子は墓のなかで生まれたのだ。母親の幽霊は毎晩水飴を与えて養つていた——愛は死よりも強い。

『新版 神々の国の旅案内』ラフカディオ・ハーン文 村松真吾訳編 八雲会

雪女

武蔵むさしの国の樵きりぎり、茂作もくさくと巳之吉みのきちは、ある日山からの帰りに吹雪に遭い、大きな川の渡し場にある小屋で晩過ふごすことにしました。

夜中に巳之吉が目覚ますと、小屋の中には、雪明りに照らされて白い着物を着た女がいるのが見えました。女は、茂作の上にかがみこんで、真つ白い煙のような息を吹きかけていました。その女の目は恐ろしいけれど、たいそう美しい。女は巳之吉に向かつて「お前はまだ若い。憐れになったので、今度は助けてあげよう。しかし、今夜見たことをしゃべったら命はないものと思うがよい」と言うと、小屋から出ていきました。茂作は、冷たくなって死んでいました。

翌年の冬のある夕方、巳之吉は、背が高く、ほっそりした美しい娘に会いました。娘の名はお雪とい、江戸へ向かう途中だと言います。巳之吉は、しばらく家で休んでいたらどうかと誘い、母と暮らす家へ連れて帰りました。

その後、お雪は巳之吉の嫁になり、十人の子どもをもうけました。

ある夜、子どもたちが寝ついてから、巳之吉はお雪に、あの吹雪の夜の出来事を話し始めました。すると、お雪は急に立ち上がると、巳之吉の上に腰をかがめ、「それは、私だよ。三言でもしゃべったら、命はないと言つてあつたはず。でも、子どもたちが不憫ふみんでお前を殺すことはできない。この子たちをいじめるようなことがあれば容赦はしません」と言うと、溶けて輝く白い霧となつて消えてしまいそれきり見ることはありませんでした。

『小泉八雲の怪談づくし』小泉凡監修 解説 八雲会

持田の浦のはなし もちだ

昔、出雲の持田の浦という村に、ある百姓がいた。とても貧しかったので、子供を持つことを恐れていた。だから、女房が赤ん坊を産むたびに、男は赤ん坊を川に投げ捨てては、妻には死産だったと偽っていた。赤ん坊は男の子のときもあれば、女の子のときもあったが、いずれの子でも夜に、川へ処分に行っていた。こうして、犠牲になった子の数は六人にもなっていた。

ところが、月日も経つうちに、百姓の暮らし向きもよくなっていた。土地も買えるようになったし、金も貯まってきた。そんなときに、妻は七番目の子供を産んだ。今度は男の子だった。

そのとき、百姓はこう言った。「わしらも、ようやく子供を養えるようになったし、年老いたら、頼りになる息子がいるだろうしなあ。それにこの子はいかいらしい。よし、ひとつ育ててみるか」

こうして、息子はすくすくと育っていった。日に日に、頑なだった男は、自分の心の変化をいぶかしく思うようになっていった。わが子が、日まじしに可愛くなっていくのがわかったからである。

ある夏の夜のこと、男は赤ん坊を腕に抱き、庭先まで歩いていった。赤ん坊は生まれて五ヶ月になっていた。

その夜は、大きな月が出ていてあまりに美しかったので、百姓は思わず声を上げた。

「ああ、今夜は珍しい、ええ夜だ」

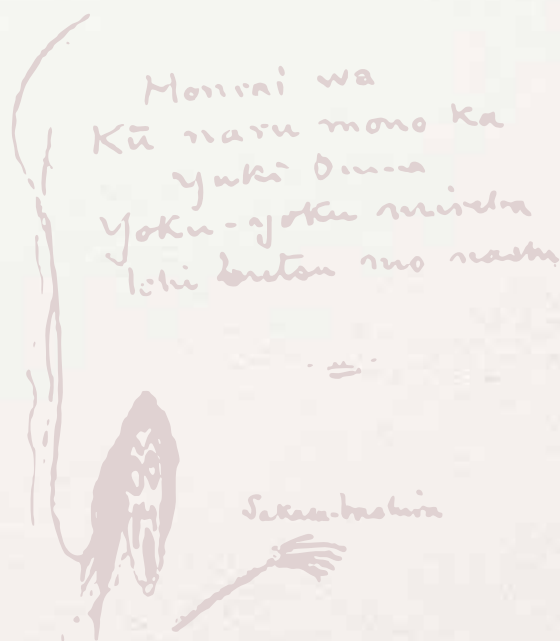
すると、赤ん坊が父親の顔を見上げ、大人の口調でこうつぶやいた。

「お父つあん、わしをしまいに捨てさしたときも、ちょうど今夜のような月夜だったね」

そう言い残すと、その子は同じ年頃の赤ん坊と同じように、ひと言もしやべらなくなった。

その百姓は僧侶になった。

『新編 日本の面影』ラフカディオ・ハーン／池田雅之訳 角川ソフィア文庫



「むじな」は『怪談(KWAIDAN)』に収められた短編です。

「Kaidan」ではなく、なぜ「Kwaidan」か。出雲弁(松江弁)に達者な方ならわかりでしょう。郷土の先輩竹下登三総理は「かきくけ」を「Kwa Kwi Kwu Kwe Kwo」A発音されていました。小泉八雲が(おそらくセツから)耳で聞いた「かいだん」の音は、出雲弁(松江弁)のKwaidan(くわいだん)だったに違いありません。

むじな

東京・赤坂に、紀伊国坂(*1)という坂があります。紀伊国(*2)の坂という意味なのですが、どうして、そのような名まえがついたのかは知りません(*3)。この坂の片側は、ひろくてふかいお濠(ほり)になっており、そのさきは、草のおいしげった土手が高くもりあがっていて、どこかの屋敷の庭につながっています。反対側には、御所(ごしよ)があり、高い壁が坂の上までつづいていました。

まだ、街灯や人力車がなかったころ、この坂は、夜になると、人通りがさびしくなりました。帰りがおそくなった人たちは、この坂をのぼるのを避け、遠まわりしてでも、ほかの道をとおっていました。なぜなら、紀伊国坂では、夜になると、むじな、つまり、人をだますタヌキがでるといわれていたからです。

最後に、ここでむじなを見た人は、三十年ほどまえに亡くなった京橋(きょうばし)の年寄りの商人でした。これは、その商人からきいたお話です。

ある晩(ばん)おそく、京橋(きょうばし)の商人が、足ばやに坂をのぼっていると、お濠(ほり)のそばで、ひとりの女が、うずくまって泣いているのを見かけました。まさか、お濠(ほり)に身投げでもする気じやあるまいかとおもった商人は、できることがあればたすけてやろうと、足をとめました。よく見ると、その女は、ほつそりとして気品があり、りっぱな着物をきていました。髪(かみ)もきちんと結(ゆ)われていて、どうやら、どこぞのいい家柄(いんがら)の娘(むすめ)のようです。

「お女中(おんなちゆう)どうした」商人は、そういつて女にちかづきました。「どうして、泣いているのだね？」

わけがあるなら、はなしてごらん。わしにできることであれば、相談(さだん)にのつてやるから」

商人は、もともと、やさしい人だったので、心からそういったのです。

ところが、女は、着物の袖(そで)で顔をかくしたまま、泣きつづけるばかりでした。

「なあ、お女中(おんなちゆう)、ききなさい」商人は、もう一度、やさしく声をかけました。「ここは、若い(わか)むすめが、おそくまでいるところじゃない。さ、泣くのはおよし。できることがあるなら、なんでもいつてごらん」

女は、商人に背(せ)をむけたまま、ゆつくりと立ち上がりました。ですが、それでも、袖(そで)で顔をかくしたまま、しくしくと泣きつづけていました。

商人は、女の肩(かた)に、そつと手をおいていました。

「お女中(おんなちゆう)、ちよつとでいいから、わしの話をおきき。さ、お女中(おんなちゆう)……」

商人がそこまでいったとき、女は、ようやくこちらをふりかえり、着物の袖(そで)をすつと、おろしな

がら、手で顔をするつと、ひとなでして見せました。すると、なんとその顔には、目も鼻も口もついていませんでした！

商人は「ぎゃっ！」と悲鳴を上げてにげだしました。真つ暗やみのなか、ふりかえる勇氣もなく、紀伊国坂をかけあがっていききました。

すると、坂のさきに、ほのかなあかりが見えました。まだ、ホテルの光くらいにしか見えませんでした。商人は、そこにむかつて必死にはしりつづけました。やがて、そのあかりは、夜鷹蕎麦の屋台の提灯だとわかりました。それでもちっともかまいません。人に会えるだけでも御の字です。

商人は、蕎麦屋の足元にいきおいよくくずれおちながら、たすけをもとめました。

「ああ、蕎麦屋！ ああ、ああ！」

「おやおや、どうしました？ 旦那」蕎麦屋は、おどろいたようすでいいました。「だれかに、おそわれでもしましたかい？」

「いやいや、おそわれたわけではない」商人は、息をきらしていいました。「ただ、あの、あつちで……」

「だれかに、おどされでもしましたかい？ 追いはぎですか？」蕎麦屋は、いたっておちついた調子でたずねました。

「いやいや、追いはぎでもない……」ふるえていた商人は、つばをぐくんと、のみこんでいいました。

「で、で、で、で、で、ここをくだった、お濠のそばに、女がひとりいて、そいつの顔が……ああ、あと

は、とてもいえねえ！」

「へえ、そうですか。それで旦那、その女の顔つちゅうもんは、こんなじゃなかったですかね？」

蕎麦屋はそういうと、顔をするつと、ひとなでして見せました。

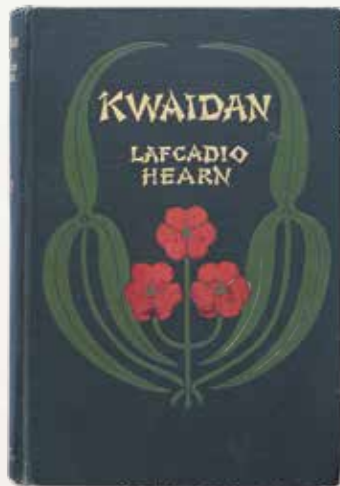
すると、蕎麦屋の顔が、卵のような、のつぽうになりました！ と、そのとたん、提灯のあかりが、ふつと消えました……。

*1 現在の迎賓館赤坂離宮の外堀、元赤坂二丁目から喰違見附までの坂

*2 現在の和歌山県と三重県の南西部

*3 江戸時代、坂の西側に紀州藩上屋敷があったことから名づけられた

『怪談 こわくて不思議な10の話』作 小泉八雲 訳 小宮由アノミスタジオ
2025年6月に刊行された新訳版



『怪談』初版本 ホートン・ミフリン社



終焉の地、東京

東大の学生に慕われた英語講師

日本への帰化手続きが終わって間もなく、東京帝国大学文科大学（現在の東京大学文学部）から教師として招かれます。神戸にいたハーンは2か月ほど松江に遊んでから、家族とともに上京します。帝国大学講師となったハーンは週12時間、英文学史、詩論、詩人論などを受け持ちます。月給は松江時代の4倍、熊本時代の2倍の400円（現在の価値で40万円〜80万円）になりました。

1896（明治29）年9月から、54歳で亡くなる1904（明治37）年9月まで、ハーンは東京で暮します。約8年間の滞在は日本に来てから最長となるわけですが、うち約7年を東京帝国大学で、あとの半年を早稲田大学で教壇に立ちました。東京帝国大学の最後は、大学側からの一方的な解雇通知だったため、ハーンを慕う学生による留任運動が起こったというエピソードが残っています。

ハーンの後任として教鞭をとったのは、英国留学から帰った17歳年下の夏目金之助（当時36歳）でした。ハーンと金之助はちょっとした因縁があります。時が遡りますが、じつはハーンが熊本第五高等学校を去った2年後の1896（明治29）年にも、金之助はハーンを追うように同校の英語教師として赴任しているのです。

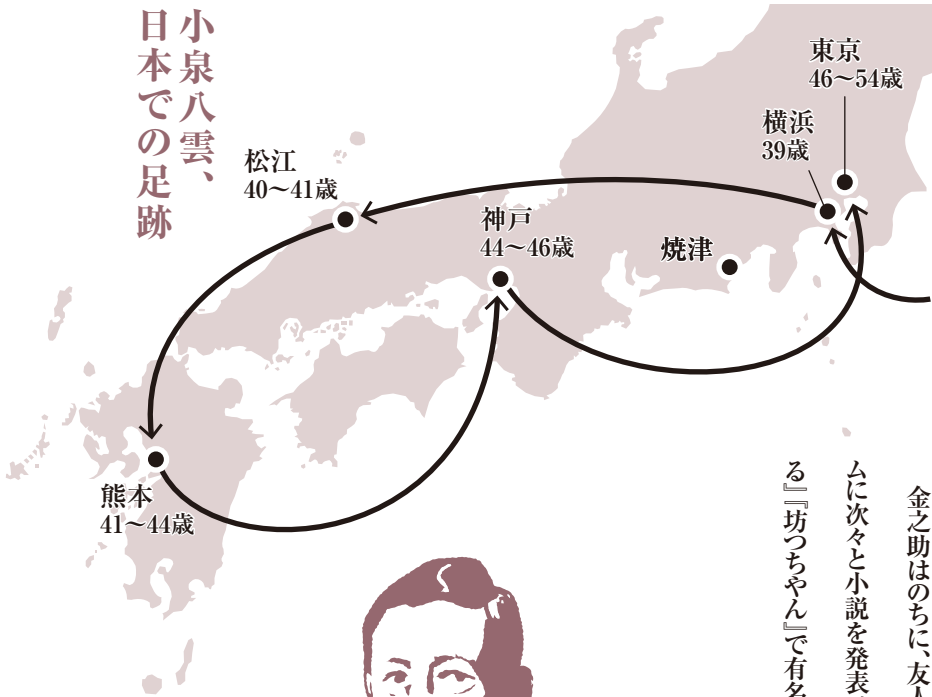
金之助はのちに、友人の正岡子規からもらった俳号をペンネームに次々と小説を発表、流行作家となりました。『吾輩は猫である』『坊っちゃん』で有名な、あの夏目漱石です。



夏目漱石 1867-1916年

絵・藤川康弘

小泉八雲、日本での足跡



東京 46~54歳

横浜 39歳

神戸 44~46歳

焼津

松江 40~41歳

熊本 41~44歳

Question 10

ハーンと漱石に面識はあったのですか？（答えは次のページへ）

ともに暮らして14年、 ハーンを失って27年

夫のハーンが亡くなったとき、セツは36歳でした。正式な結婚が認められてからわずか8年。しかしこの間、夫婦は長男の一雄に続き次男^{いっわ}、三男^{すずこ}清、長女寿々子の4人の子宝に恵まれます。東京に越して6年後の1902（明治35）年には、西大久保村（現在の新宿区大久保1丁目）に700坪余りの広い家を購入することができました。

明治元年生まれのセツは大正を経て昭和まで生き抜き、1932（昭和7）年にこの大久保の家で64歳の生涯を閉じます。23歳の若さで松江を離れましたから、すっかり東京のヒトになっていたことでしょう。



大久保の家



セツと家族のアルバム

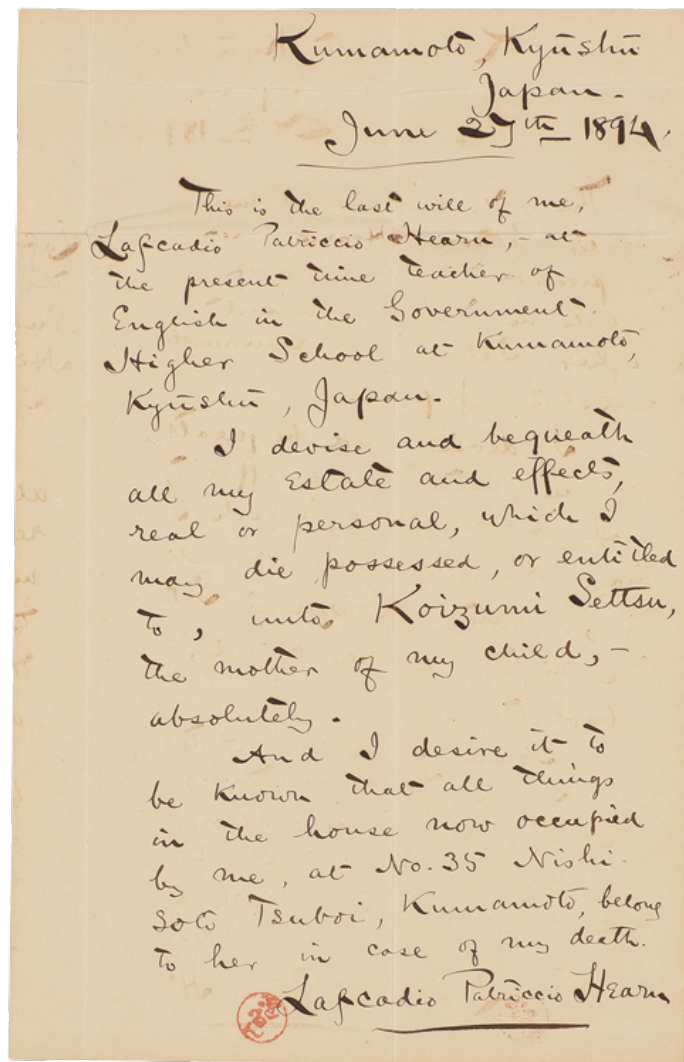
前列左から寿々子、セツ、喜久枝（一雄の妻）
後列左2人目から清、巖、一雄

小泉家所蔵

思ひ出の記

ヘルンはよく人を疑えと申しましたが、自分は正直すぎる程だまされやすい善人でした。自分でもその事を存じていたものですからそんなに申したのです。一國者であった事は前にも申しましたが、外国の書肆^{しよし}などと交渉致します時、なにぶん遠方の事ですからいろいろ行きがちになる事もございますし、その上こんな事につけては万事が凝り性ですから、挿画の事やら表題の事やらで向こうではいちいちヘルンに案内なしにきめてしまうような事もありますので、こんな時にヘルンはよく怒りました。向こうからの手紙を読んでから怒ってはげしい返事を書きます、すぐに郵便に出せと申します。そんな時の様子がすぐにわかりますから「はい」と申しておいてその手紙を出さないでお願いします。二、三日致しますと怒りますが静まってその手紙はあまりはげしかったと悔やむようです。「ママさん、あの手紙出しましたか」と聞きますから、わざと「はい」と申しいます。本当に悔やんでいるようですから、ヒョイと出してやりますと、大層喜んで「だから、ママさんに限る」などと申して、やや穏かな文句に書き改めて出したりしたようでございます。

『思ひ出の記』小泉節子著 ハーベスト出版



1894(明治27)年6月27日

※ハーンのサインの左側に「遍留ん」(ヘルン)の印がみられます

池田記念美術館所蔵

ハーンの遺言状

遺言状に込められた切実な思い

長男・雄が誕生したとき、ハーンの帰化手続きは始まっておらず、セツとの関係は内縁状態でした。そのため、母子の行く末を案じたハーンは、長男誕生の7か月後、自身44歳の誕生日に遺言状を認めた。

遺言状には、こう書かれています。

「私のすべての財産および所有物を、私の子どもの母親である小泉セツに確実に寄贈する」

セツの英語表記は「Settsu」ではなく「Settsu」の字が2つ重なっています。



ハーンの遺言状をおさめた封筒

「ラフカディオ・ハーンの遺言

私から小泉セツに贈られたものである。1894年7月7日、私は小泉セツに遺言を託し、これを保存し、この封筒に日本語で署名するよう彼女に頼んだ。」

※封筒の表面に、セツの漢字のサインがあります

八雲とセツを

支えた人々



Saka, Ishim
Tate shiro tayo ya
Kotono ni tae
Yuki nite hito no
Shiraga naranu



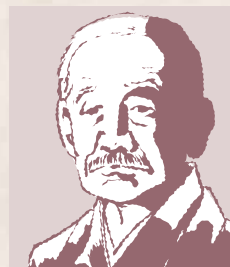
岸 清一
1867-1933年

松江が生んだ日本の近代スポーツの父。かつて渋谷に氏の名前を冠した岸記念体育館がありました(いまも神宮球場隣り)「Japan Sport Olympic Square」内に「岸清」メモリアルルームが。八雲の没後、国際弁護士として八雲の著作権をアメリカの出版社から小泉家に移管すべく奔走。遺品保護のための多額の資金援助や、小泉八雲記念館建設に際しても募金を行いました。



西田 千太郎
1862-1897年

松江雑賀町の出身で、八雲が島根県尋常中学校に赴任したとき教頭。公私にわたって八雲を支え、セツとの結婚の媒酌人もつとめたといわれています。八雲が松江を離れたあとも文通が続きましたが、結核のため34歳の若さで亡くなりました。西田が遺した日記には「ヘルン氏」の松江での様子が克明に記録され、貴重な資料となっています。



絵・藤川康弘

嘉納 治五郎
1860-1938年

日本柔道の父にして、東京オリンピック招致のため力を尽くした教育家。八雲が熊本第五高等中学校で英語教師をしていた3年間のうち、最初の1年余り校長として接しました。八雲は学校の道場へ、実際に柔道の稽古を見学しています。西田千太郎に宛てた手紙で八雲は、10歳下の嘉納を「性格は同情心にあふれ、まったく飾らず正直です。」と評し、「あなたもきと嘉納氏が好きにならうと思います」と書いています。



B.H. チェンバレン
1850-1935年

イギリスの言語学者、日本研究家。23歳で日本政府に招かれ、38年間にわたり滞在。1882年に刊行した『古事記』の英訳本は、やがて八雲の目に止まり、彼が日本に誘われるきっかけになります。
東京帝国大学教師の時代には、八雲の2度の重大な転職に力添え(島根県尋常中学校と熊本第五高等中学校の英語教師を斡旋)しました。

八雲作品 私のいち推し

小泉八雲を顕彰する施設は松江の他にも、全国にたくさんあります。熊本、神戸、新宿といった松江以降の居住地や夏の滞在地・焼津だけでなく、富山や新潟にも関連ミュージアムが存在します。全国5つのミュージアムの方々に、数ある八雲作品のなかで1番のお薦めを挙げてもらいました(敬称略)。

小泉八雲熊本旧居



八雲が熊本で最初に住んだ家。講座や八雲忌の朗読会など、八雲関連イベントの会場としても活用。

「夏の日の夢」 『東の国から』所収

館長 坂本弘敏
本作品は情景が眼前に浮かび上がってくる絵画的な文章表現で彩られ、八雲が好んだ浦島伝説や美母の追憶を取り上げた「紀行文」として著者の最もすぐれたものと評されています。

焼津小泉八雲記念館



「焼津にて」 『霊の日本』所収

焼津市文化振興課資料館担当 鈴木源
間近に迫る精霊の気配、碎ける波濤の轟きを五感で受け止めるような、圧倒的描写！八雲が愛した焼津の海や人々、風俗慣習から受けた強いインスピレーションを感じられます。

富山大学付属図書館ヘルン文庫



「私の守護天使」 『新編 日本の怪談II』

富山大学研究推進部学術コンテンツ課課長補佐 爾岡書穂 林和宏
アイルランドでの少年期の不思議な体験が基になった小作品で、怪談「Mujina」の執筆にも影響を与えたこの物語は日本の怪談を発見することで八雲が振り返ることができた記憶ではないかと思えます。

新宿区立新宿歴史博物館



『怪談』

学芸員 藤本友美
『怪談』は、八雲が現・新宿区大久保に暮らしていた時期に書き上げたものです。八雲が亡くなった年(1904年)に出版されました。見事な語り口で、読者 작품을世界へ引き込む傑作です。

池田記念美術館(新潟県南魚沼市)



『ラファディオハーンの クレオール料理読本』

館長 高橋良
(CCCメディアハウス、2017年復刻版)
「スイカの皮のブリザード」ってどんな味がするんだろう。ハーンがクレオール料理で味わった砂糖煮を、地場産の八色西瓜で料理してみても、と誘惑してくれたレシピ集。この夏こそは挑戦します。



松江に残る 八雲の「面影」



月照寺

松江藩主松平家の墓所。緑の木々に囲まれた静謐な境内を、八雲は好みました。6代藩主の墓前にある大きな石づくりの亀が、真夜中にのそりのそりと這い出したという伝説があります。



ゴーストツアー

八雲の曾孫・小泉凡さんがアイルランドのダブリンで経験したツアーに触発され、2008年からスタート。八雲ゆかりの怪談スポットを、地元語り部がナビゲートする人気ツアーです。



アイリッシュフェスティバル ニューオーリンズフェスティバル

ハーンは27歳からの10年間、アメリカのニューオーリンズに滞在しました。それが縁で松江市とニューオーリンズ市は、1994(平成6)年に友好都市提携を行いました。松江市はまた、ハーンのルーツであり子ども時代を過ごしたアイルランドとも交流を続けています。春にアイリッシュフェスティバル、秋にニューオーリンズフェスティバルが市内で開催されるのは、そういう事情からです。



小泉八雲記念館

八雲亡きあと、教え子やゆかりの人々の尽力で1934(昭和9)年に開館。最初は洋館でしたが、1984(昭和59)年、和風な外観に。2016(平成28)年、リニューアルオープンしました。八雲の直筆の原稿や初版本などの遺愛品が展示されています。館長は八雲の曾孫の小泉凡さん。



小泉八雲旧居(ヘルン旧居)

八雲が1891(明治24)年6月から11月までの5か月間、セツ夫人と暮らした旧松江藩士の武家屋敷。『知られぬ日本の面影』『日本の庭』の舞台となった三方に庭が見える部屋や、八雲が好んで眺めた庭などが当時のまま保存されています。



1850 (嘉永3) 年
1852 (嘉永5) 年
1854 (安政元年) 年
1857 (安政4) 年
1863 (文久3) 年
1866 (慶応2) 年
1867 (慶応3) 年
1868 (慶応4) 年
1869 (明治2) 年
1874 (明治7) 年
1876 (明治9) 年
1877 (明治10) 年
1879 (明治12) 年
1881 (明治14) 年
1886 (明治19) 年
1887 (明治20) 年
1890 (明治23) 年

ラフカディオハーン 小泉セツ

6月27日 ラフカディオハーン、ギリシアのレフカダ島に生まれる
母ローザとともに、父チャールズの実家のあるダブリンへ移る。その後、大叔母ブレナンに引き取られる
母ローザはハーンを残してギリシアに戻る
両親が離婚し、父は再婚相手とインドへ赴任
英国ダラム市近郊にある聖カスバート校に入学
遊戯中の事故で左目を失明する
大叔母ブレナン破産のため聖カスバート校を中退する
小泉セツ、南田町に生まれる。間もなく稲垣家へ養女に
移民船でアメリカに渡り、シンシナティーに行く
シンシナティー・インクワイヤラー社の正社員となる
混血黒人のアリシア・フォーリー(マティー)と結婚する
内中原小学校に入学
小泉セツ
マティーと別れ、ニューヨークに移る
内中原小学校上級教科に進めず、織子として働き始める
タイムズデモクラット社の文芸部長に迎えられ
鳥取の土族・前田為二と結婚
小泉セツ
カリブ海の仏領マルティニーク島に渡り、約2年を過ごす
前田為二と離婚
小泉セツ
ハーパー社の特派記者として、ニューヨークを出発し日本に向かう

4月

横浜に着く

8月

島根県尋常中学校、師範学校の英語教師として松江に赴任。しばらく富田旅館に逗留する

6月

ハーンとセツ、北堀町の土族屋敷とともに暮らし始める

11月

熊本第五高等学校への転勤により、セツの家族を伴い熊本へ

11月

長男二雄が生まれる

9月

日本に関する最初の著作『知られぬ日本の面影』を

10月

ホートン・ミフリン社(ポストン)より出版、評判になる

2月

神戸クロニクル社(英字新聞社)の記者に転職

9月

帰化手続きが完了し、ハーンから「小泉八雲」に改名

2月

帝国大学文科大学講師の辞令発令により、家族とともに上京

2月

市ヶ谷富久町から人力車で本郷に通う

12月

次男蔵が生まれる(のち稲垣姓)

3月

三男清が生まれる

3月

新宿西大久保に新居を構える

3月

帝国大学講師を退職する

9月

長女寿々子が生まれる

3月

早稲田大学文学部講師に就任

4月

『怪談』出版(ホートン・ミフリン社)

9月26日

八雲、心臓発作により急逝(54歳)

2月28日

セツ死去(64歳)

結局、ラフカディオ・ハーンは 何者だったのか？

Lafcadio Hearn

小泉八雲を「明治の文豪」と紹介する記述を見かけるたびに違和感を感じます。「文豪」に明確な定義はないようですが、一般的には「生前没後にわたって大きな影響を与えた近代・昭和戦前戦後の小説家」を言うと思います。

夏目漱石は文豪だったでしょうか？ Yes。芥川龍之介は？ Yes。川端康成は？ Yes。小泉八雲は？……。Yesと答えることにためらいを覚えるのはなぜでしょう。八雲は文豪と称される作家とは違うアプローチで作品を紡ぎ、日本文学に異彩を放ったことを、おそらくみんな感じ取っているからです。

八雲の真骨頂は「再話」です。最高傑作『怪談』は、妻のセツをインフォーマント（情報提供者）とする再話文学でした。だとすれば、八雲を「文豪」ではなく、「再話の神様」と呼んではいかがでしょうか。簡潔な文体で多くの作家に影響を与えた志賀直哉が「小説の神様」と呼ばれたように。

小泉八雲は日本に古くから伝わる口承に価値を見出し、それを文学作品に昇華させて現代に残しました。その作業は松江で始まり、わずか1年3カ月の松江滞在中に娶った妻セツとの共同製作でした。そして戦後、松江市は京都、奈良と並び日本で3市しかない国際文化観光都市として認められました。これも八雲の存在があったからこそでした。

東京大学での最終講義で八雲は、学生に「寸暇を惜しんで本を読め」という趣旨の檄を飛ばしています。私たちもあらためて八雲に敬意を払い、八雲の作品に接してみよう。

遺言状に記されたハーンのサイン(池田記念美術館所蔵)

参考文献



本書に収録した作品は以下を底本としました。

- 『新版 神々の国の旅案内』ラフカディオ・ハーン文 村松真吾訳編 八雲会
- 『小泉八雲の怪談づくし』小泉凡監修・解説 八雲会
- 『怪談 こわくて不思議な10の話』作 小泉八雲 訳 小宮由 アノニマ・スタジオ
- 『思ひ出の記』小泉節子著 ハーベスト出版
- 『新編 日本の面影』ラフカディオ・ハーン／池田雅之訳 角川ソフィア文庫
- 『湖都松江』37号 松江市文化協会

主な参考文献

- 『小泉八雲と妖怪』小泉凡著 玉川大学出版部
- 『怪談四代記 八雲のいたずら』小泉凡著 講談社
- 『小泉八雲事典』平川祐弘監修 恒文社
- 『怪談』著者 ラフカディオ・ハーン 翻訳 円城塔 KADOKAWA
- 『小泉セツ ラフカディオ・ハーンの妻として生きて』小泉八雲記念館
- 『神々の国の首都に住まう443日』小泉八雲記念館
- 『小泉八雲、開かれた精神の航跡。』小泉八雲記念館 図録
- 『別冊太陽 小泉八雲 日本の霊性を求めて』平凡社
- 『小泉八雲 放浪するゴースト』新宿歴史博物館
- 『小泉八雲集』上田和夫訳 新潮文庫
- 『小泉八雲』MUJIBOOKS
- 『へるん先生の汽車旅行』芦原伸著 集英社文庫

写真・資料等の所蔵先は、それぞれの下部に表記いたしました。クレジットのない写真・資料等は、すべて小泉八雲記念館からの提供です。協力いただいたミュージアムには感謝申し上げます。

一から知りたい 小泉八雲とセツの物語

2025(令和7)年9月1日発行

発行 松江市文化スポーツ部文化振興課

TEL 0852-5515517

編集 羽田昭彦(小泉八雲・セツの普及コーディネーター)

デザイン・イラスト 藤川康弘

協力 小泉八雲記念館

小泉八雲・セツのドラマをイカしてバケる松江推進協議会

印刷 有限会社 黒潮社

本冊子の無断複製、転載等を禁じます

非売品